資料２

令和６年(第１８回)みどりの学術賞選考委員会
委員長コメント

令和６年（第１８回）みどりの学術賞受賞者の選考にあたり、選考委員会は、みどりに関する学術研究に造詣の深い全国の学識経験者約４５０名の方々に対し、受賞に相応しい候補者の推薦を依頼いたしました。

その結果、候補者として、大変幅広い研究分野から６２名の研究者を推薦していただきました。

選考委員会は、推薦のあった方々の業績を慎重に調査・審議し、植物細胞生物学分野と緑地環境計画学分野で活躍されているお二人の方が受賞に相応しいとの結論にいたりました。

受賞者のお一方は、奈良先端科学技術大学院大学理事、奈良国立大学機構理事、神奈川大学理事、京都大学名誉教授、甲南大学名誉教授の西村いくこ博士です。動くことができない植物が環境変化に備えるため、植物細胞に特徴的な細胞内膜系が重要な役割を果たしていることや、「植物の器官がまっすぐに伸びる」という基本的な器官運動の原理に関わる仕組み等を明らかにされました。また、日本植物生理学会長や国際植物分子生物学会理事を務めるなど、国内外での学術推進に尽力され、植物科学の発展に大きく貢献されました。

もうお一方は、東京大学大学院工学系研究科教授の横張真博士です。農林地のもつ国土保全機能や景観保全機能の解明等を通じて「緑の多面的機能」を体系化するとともに、農林地と市街地の小規模混在による持続的なグリーンインフラ計画論を構築されました。また、国や自治体の各種専門委員会の委員長や日本都市計画学会等の会長を歴任され、研究成果の社会還元にも尽力し、学術的基盤にもとづく緑の多面的機能の都市・地域計画への社会実装に大きく貢献されました。

受賞者のお二人は、いずれも学術的な観点から極めて優れた業績を修められただけでなく、人類とみどりとの関わりについて深く追求され、みどりを活かして暮らしていく未来を示されました。

選考委員会を代表し、両博士の永年に渡るご研鑽に対し、心から敬意を表するとともに、みどりに関する学術が新たな知をもたらし、社会を動かす源泉になることを期待いたします。

令和６年３月８日

みどりの学術賞選考委員会委員長
江　面　　浩